

新古今 歳時記

平成 28年3月

戦前の歳時記の様子を紹介した故林鼓浪の連載をもとに、昔懐かしい行事など、現在と比べながら、話題のイベントを紹介していきたい。
今月から、四季でいえば「春」。梅、椿、つくし、桜など開花のピークを迎える。徳島市内では、中央公園を始め、下に掲載している眉山(大滝山)の春日神社は古くからの名所のひとつ。



写真：大滝山山麓の春日神社の桜

13 日	12 土	11 金	10 木	9 水	8 火	7 月	6 日	5 土	4 金	3 木	2 水	1 火	月
きのえ 一白赤口 うま 旧 2.5	みずのと 九紫大安 み 旧 2.4	みずのえ 八白仏滅 たつ 旧 2.3	かのと 七赤先負 う 旧 2.2	かのえ 六白友引 とら 旧 2.1	つちのと 五黄赤口 うし 旧 1.30	つちのえ 四緑大安 ね 旧 1.29	ひのと 三碧仏滅 い 旧 1.28	ひのえ 二黒先負 いぬ 旧 1.27	きのと 一白友引 とり 旧 1.26	きのえ 九紫先勝 さる 旧 1.25	みずのと 八白赤口 ひつじ 旧 1.24	みずのえ 七赤大安 うま 旧 1.23	新暦・旧暦
雑節・祝日													
祭・イベント													
季節の風物詩													



※記載されている事項は、予告なしに変更、または中止されることがありますので、あらかじめご了承下さい。

昔

64年前の連載より

物事が逆転した場合、逆さま、
といえ、一般に通用するが、阿波
では「じゃがんぼ」という。何の意
味だか分りにくい、昔の人はよ
くこんなことを言っていた。

お釈迦さんは二月に死んです
ぐ三月に誕生なさる。それで「し
やかん坊」「じゃとシヤレ」とば
したのでいつか阿波の方言を生
んだという。

そんな考証はとにかく、そもそ
も釈迦如来がネハンの雲にかく
れたという二月十五日は相変わ
らず旧暦で今年は三月の廿二日
に当り、各寺院で法会を執行す
る。昔だとこの日は家々でおいり
といって、いった米を砂糖で固め
たもの、これをハナクソというの
は花供養の転語で、私たちの子供
の時代は仏壇に供えた。このハナ
クソを下げてたべるのがうれし
かった。そのころは市街をはなれ
たお寺へ行くのだしといって、ム
シロ小屋をかけた大きな人形を飾
ったものである。

天狗久の家へ行くと陳列棚の
すみに、だし人形に貸す首が幾つ
も並べてあるが、もう現在ではだ
しもすたれてしまい、あたら名工
の作品でも何年かのホコリを払

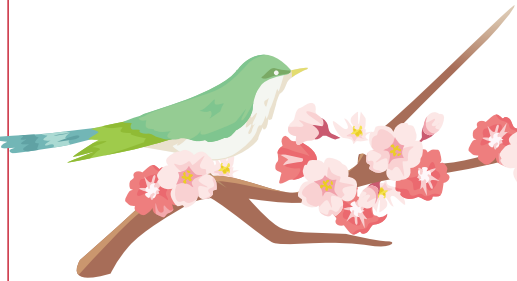
おともせず息づまるような顔
をした人形の目玉がガラス越し
に光っている。

さて、ネハンとは釈迦の遺徳奉
賛を修する大法会で、当日本堂
にかかえるネハン図の大幅には
沙羅双樹の下に釈尊入滅を描き、
天龍鬼畜五十二類のものがどっ
こくしているところで、この日に
限って寺々で一般に公開されるの
である。特に頭が下がるのは善福
寺所蔵のネハン図である。著書は
渡辺広輝で彼がひつ生の努力を
かけて丹念に描きあげた壮麗極
るものである。

時は天保四年阿波藩の画所を
承り本格的な住吉派の筆法はい
よいよ円熟の域に達し、四十五歳
という画家として最も油の乗り
きった時代である。幼時阿波郡か
らの寺に引とられて養育を受
けた恩に報いるために、さてこそ
ネハンの大作に没頭し一年八か月
を精進したとあるだけに、画面の
うるわしさは金泥仕あげた密画
の極彩色、むろん県下では最高の
ものとまでいわれていた。

もつつ私には般若院のネハン
図が忘れられない。佐々木信照の
作で、この人は広畑よりずっと古
い時代の阿波藩の画師であった。
藩の画所としては広畑に次いで

31 木	30 水	29 火	28 月	27 日	26 土	25 金	24 木	23 水	22 火	21 月	20 日	19 土	18 金	17 木	16 水	15 火	14 月
みずのえ 一白赤口 ね	かのと 九紫大安 い	かのえ 八白仏滅 いぬ	つちのと 七赤先負 とり	つちのえ 六白友引 さる	ひのと 五黄先勝 ひつじ	ひのえ 四緑赤口 うま	きのと 三碧大安 み	きのえ 二黒仏滅 たつ	みずのと 一白先負 う	みずのえ 九紫友引 とら	かのと 八白先勝 うし	かのえ 七赤赤口 ね	つちのと 六白大安 い	つちのえ 五黄仏滅 いぬ	ひのと 四緑先負 とり	ひのえ 三碧友引 さる	きのと 二黒先勝 ひつじ
旧 2.23	旧 2.22	旧 2.21	旧 2.20	旧 2.19	旧 2.18	旧 2.17	旧 2.16	旧 2.15	旧 2.14	旧 2.13	旧 2.12	旧 2.11	旧 2.10	旧 2.9	旧 2.8	旧 2.7	旧 2.6
				復活祭	電気記念日			お彼岸明け 世界気象デー 満月	放送記念日	振替休日 三りんぼう	春分の日	お彼岸入り 社日			上弦		ホワイトデー



寒のもどり特異日



写真：神山町の明王寺境内にて

花見

ソメイヨシノ満開時期

19・20日 ぶち★アソビ
(徳島市東新町商店街)



スミレ咲く

菜種梅雨の季節

なむしちゅうとなる
菜虫化蝶

ヤナギ芽吹く

さくらばはじめてひく
桜始開

花曇りの季節

すずめはじめてすくう
雀始巢

今 桜咲く月

3月といえば、ひな祭り、全国的に有名になった徳島県の勝浦

昭和26年3月 徳島新聞連載
阿波歳時記 3月の巻より抜粋
著者：絵師郷土芸能研究家
林鼓浪（1887～1965）

カットは林鼓浪



守住貫魚が有名だが十三代の齊昌以前にさかのぼって阿波の絵国史をつづる上に、佐々木信照を逸してはならないのにあまり世人に知られていない。私は信照の作がネハン図になって般若院に残っているのを、唯一の手がかりとして研究を進めていたが、惜しいことには広輝という信照といい、あのいたましい戦災でこの二つの名品を灰にしてしまった。



取材デザイン編集
上野昇（のちゃん）
四国大学
生活科学科 講師

町「ビッグひな祭り」をかわきりに、徳島県内の至る場所で素朴でユニークな飾りを楽しむことができる。

花の見ごろとしては、神山町や吉野川市美郷、阿南市長生町明谷など、満開の梅林を散策する場合は3月初旬まで、椿は3月中旬ごろ、そしてソメイヨシノは3月下旬ごろが満開のピークとなるだろう。ただし、ここ最近の気象異常により、多少、ずれる場合も予想されるので、各自で情報収集をお願いしたい。

また、忘れてならないのが「卒業シーズン」、大学進学や就職などで、徳島県を離れる生徒や学生が多い中、まだまだ数は少ないと思うが、ご縁があつて徳島県に来る方もいるはず。新天地の徳島で、勉学、就業、遊びと不安な面も多いかもしれないが、ぜひ、そんな場合はどんどん地元民に聞いてみよう。お遍路さんの「おもてなし文化」を大切にしている徳島県民ならば、きつとやさしい返事が返ってくるはず。